

ぱれっと

3月 2014
No.175

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。



地域住民と被災地のこれからを語り、描く。
共催イベント「あなたのオモイ それぞれのカタチ」より

P2 ～ P5

協働 のまちづくり SENDAI ▷

市民ひとりひとりが考える震災メモリアル

P6

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

市民ひとりひとりが考える震災メモリアル

NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台 × 一般社団法人 MMIXLab × RE: プロジェクト × 市民協働推進課

仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」は、東日本大震災に関わる記録や記憶を市民共有のものとして後世に継承し、風化防止や防災・減災の発信につなげていくためにはどうしたらよいかを、仙台市民と一緒に考えていこうという取り組みです。平成 25 年度仙台市市民協働事業提案制度の事業の一つとして採択されました。今回、関わっている団体の方々にその経緯と成果、これからの展開についてお話をうかがいました。

東日本大震災 3.11 を風化させないために

私たちにさまざまな形で大きな爪痕を残した東日本大震災から 3 年が経ちました。当時感じていた恐怖や不安、それからの日々を過ごした時に考えた様々なこと……それは、仙台市民としてこの震災に当事者として向き合ってきたからこそ感じられるのではないのでしょうか。

そうした震災に関するさまざまな記憶や記録を市民共有のものとしてとどめ、世代を、そして地域を越えて継承していこうと、仙台市では震災メモリアルプロジェクトに取り組んでいます。そして、そうしたことについて市民が参加しながらともに構築していく仕組みとして、仙台市市民協働推進課では「伝える学校」を震災メモリアル・市民協働プロジェクトとして今年度から実施しています。

東日本大震災で被災した当事者だからこそその「伝えたい」という想い。それは、震災の時の状況が人それぞれであるように、その視点も当事者の数だけあるように思えます。この市民ひとりひとりが持つ「伝える視点」を引き出し、市民発の多様な発信へとつながる仕組みづくりを目指しているのが「伝える学校」です。先人からの教えに学ばされた今回の震災。「伝える学校」では「私たちが未来の仙台市民にできること」を市民ひとりひとりが考える場を目指しています。

個々の団体の強みと特性を生かす

「伝える学校」は、仙台市市民協働事業提案制度により採択された一般社団法人 MMIX Lab(以下、MMIX) と NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台(以下、20 世紀アーカイブ)、仙台市と公益財団法人仙台市市民文化事業団が取り組む RE: プロジェクト(以下、RE プロ)、そして仙台市市民協働推進課の四者によって運営されています。

震災を受けて、MMIX は表現の視点から、20 世紀アーカイブは写真による記録、RE プロは言葉をとおして伝えることを行っています。こうしたさまざまな視点から「震災を伝えること」に取り組む団体と協働することで、仙台市としては多様な震災継承の視点を獲得しながら市民参加による震災メモリアルの構築を目指したいという狙いがあります。

今年度は、協働団体が示すように「震災を伝える視点は一律ではなく多様にある」ということを市民の皆さんに学んでもらおうと、7 つの講義が行われました。講義の実施にあたっては協働団体が各回のコーディネーターを務め、団体の専門性と活動で築いてきたネットワークを生かしてさまざまな分野で伝えることに関わっている実践者や専門家をゲスト講師として招き、生徒(参加者) はゲスト講師との対話を通して学び合うというスタイルが出来上がりました。
(仙台市市民協働推進課)



いま、私たちが感じていること、 考えていることをカタチにして未来へ語りついでいくために

「伝える学校」の講義の中で、詩やアート、写真、映像、音楽など、さまざまな取り組みが紹介され、「いろいろな伝え方があること」が示されました。どれが正解というわけではなく、それぞれができる形で取り組みを続けることが大切です。それぞれのやり方を尊重し、時には協力し、わたしたちの記憶を伝えていきます。

プレイベント

2013/8/18 @ せんだいメディアテーク

「伝えること」を続けるために ー「伝える学校」が考えていることー

ゲスト

加川 広重さん（美術家）

村上 タカシさん（【伝える学校専任講師】 一般社団法人 MMIXLab 代表）

佐藤 正実さん（【伝える学校専任講師】 NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台副理事長）

進行 田澤 紘子さん（市民協働推進課）



9 月からの開校に向けて、被災地をテーマに巨大水彩画を描くアーティストの加川広重さんのお話を聞きながら、「伝える学校」専任講師との対話の中で「震災を伝え続けること」の意義を会場の皆さんと一緒にと考えました。

9/22 @サポセン 市民活動シアター

「3.11 をアートで伝える」



▷1 時間目 ゲスト講師 開発 好明さん（美術家）

▷2 時間目 ゲスト講師 清水 敏男さん（インディペンデントキュレーター）

震災以降、被災地で行われているさまざまなアート活動。そこにはどういった思いがあるのか。被災地に残ったもの、そしてこれから残していくもの。パブリックアートの視点で「残すこと」を考えました。

▶コーディネーター 一般社団法人 MMIX Lab

10/19 @サポセン 市民活動シアター

「震災アーカイブをミライに伝える」

ゲスト講師 長坂 俊成さん（立教大学教授）

デジカメ、ケータイ、スマホ…私たちは個人で記録メディアを持つようになり、震災も「個人の記録」として残せるようになりました。その膨大な記録をアーカイブすること（まとめること）には、今後、どのような意味が出てくるのか。

「震災アーカイブをミライに伝える」ために、私たちにできることは何か。「みんなの記憶」として記録が残るようなアーカイブのあり方と、実践的な活用を考えました。

▶コーディネーター NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台



11/16 @サポセン 市民活動シアター

「見たこと・聞いたことを言葉で伝える」

▷1 時間目

『RE：プロジェクト通信』の詩ができるまで

進行 武田 こうじさん（詩人）

▷2 時間目

『聞き書き』が被災地にできること

ゲスト講師 香月 洋一郎さん（前 神奈川大学教授 / 民俗学）

進行 西大立目 祥子さん（ライター、青空編集室主宰）



一時間目は、自分の言葉に出会い、想いを伝えるということはどういうことなのか、「RE：プロジェクト」の取材と詩作を通して考えました。二時間目は、生身の人間が生身の人間に向き合い、その話を記録する「聞き書き」という行為や記録に含まれる豊かさや深さ、しかしそれゆえに陥りやすい狭さや頑なさについて、考えました。

▶コーディネーター RE：プロジェクト

12/7 @東北学院大学 90 周年記念館

「記憶をアートで伝える」

▷1 時間目 ゲスト講師 和合 亮一さん（詩人、プロジェクト FUKUSHIMA! 代表）

▷2 時間目 ゲスト講師 長田 謙一さん（名古屋芸術大学大学院教授 / 芸術学）

震災を伝える上で「アート」が果たす役割とは？ノンフィクションやドキュメンタリーとは違う伝え方／伝わり方について、それぞれのゲスト講師との対話から考えました。

▶コーディネーター 一般社団法人 MMIX Lab



2014/1/19 @サポセン 市民活動シアター

「1995 年と 2004 年の震災アーカイブを伝える」

▷1 時間目 ゲスト講師 高森 順子さん
（阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター震災資料専門員）

▷2 時間目 ゲスト講師 山崎 麻里子さん
（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 研究員）

1995 年の阪神・淡路大震災、2004 年の新潟県中越地震。大震災に遭った二つの街では、後世・非被災地に伝えるために、今までどんなアーカイブ活動を行い、どんな工夫をしながら市民を巻き込んできたのか。「震災をキロクすること」に、今後どんな意味が出てくるのかを震災を経験した二つの先例から学びました。

▶コーディネーター NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台



特別編

2/12 @Ai ファクトリー 「世界に伝えること」

イギリス人振付師ジョー・パークスさんが、移民が多く住む地区のティーンエイジャーたちと故郷をテーマに制作した作品「Home」などを紹介しながら、震災によって失われた場所や失われつつある記憶とどう向き合い、故郷というものをどう取り戻していったらいいのか。身体表現という表現方法の持つ可能性を示してくれました。

▶コーディネーター 一般社団法人 MMIX Lab



伝える学校のこれから

今年度の「伝える学校」の活動は、「伝えること」を学ぶ場・考える場を市民に提供できたこと、そして、その仕組みづくりを市民団体の専門性と個性を生かしながら構築できたことが、大きな協働の成果と言えます。今後はこれまでの取り組みを生かし、「伝えること」を考えるだけではなく、「伝えること」をやってみるという実践の場をつくることで、実際に市民が活動に参加できる機会を増やすための仕掛けづくりをしていきたい、と 4 団体のみなさん。3 月 16 日(日)に開催する「伝える学校の学級会」では、今年度の振り返りを行いながら、身近で「伝えること」を実践するゲストを招いて、具体的なこれからの伝え方を検討するとのこと。団体間の連携も来年度は強化したいそうです。

最後に今後、仙台の震災メモリアルの展望についてお聞きしたところ、「市民が主役となって震災記録や記憶を語り伝えていく拠点整備を望みたい」と、20 世紀アーカイブ副理事長の佐藤正実さん。そし

て「ハコモノ先行でない、ソフト面が充実した市民参加型の活動を提案していきたい」と、MMIX の代表村上タカシさんも同じ思い。

RE プロの田澤紘子さんは、「震災の伝え方は十人十色。だからこそ、市民ひとりひとりの震災メモリアルの構築は可能だと考えています」と答えてくれました。

「庁内との連携も深めていくことで、オール仙台として震災復興計画の実現に取り組んでいきたいです」と、担当課の市民協働推進課松川課長。「伝える学校」の取り組みは、他自治体からも関心が寄せられているそうです。

震災から 3 年が経ちました。丸 3 年にして私たちができることはなんだろう。「伝える」という取り組みを長く続けていくことは、震災を忘れないためにも、災害への備えの重要性を伝えるためにも、これからますます大切になっていくことだと感じました。(葛西淳子・菅野祥子)

団体情報

▶ NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台

古き仙台はどのような街だったのかを市民に伝え、過去とのつながりを実感できるようアーカイブ(記録)化し、後世に引き継ぐことを目的に設立。大正・昭和の先人たちが残した 8 ミリや写真などの文化資料の活用は世代を越えた共感を集めている。3.11 震災後は、市民から震災画像を募り「3.11 キヲクのキロク」の製作や全国写真展、3.11 公開サロンなどを開催。

▶ 一般社団法人 MMIX Lab

既成の芸術の枠組みにとらわれず、各種メディアを融合させ、アートと地域文化を結び創造的芸術活動を実施。震災以降は、津波でねじ曲がった公共物等を残し震災を後世に伝える「3.11 メモリアルプロジェクト」や、津波が来た地点に桜を植樹していく「桜プロジェクト」を展開している。

▶ RE: プロジェクト

東日本大震災により被害が甚大で居住が困難となっている地域を対象に、その地域に根付いてきた暮らしや文化、伝統を地域住民の聞き取りからあぶり出し、可視化する事業を行っている。フリーペーパー『RE: プロジェクト通信』の発行や、地域の思い出とともに食文化を振り返る「オモイデゴハン」等に取り組む。

主催：仙台市、(公財)仙台市市民文化事業団

【連絡先 お問合せ】

震災メモリアル・市民協働プロジェクト
「伝える学校」

仙台市市民局市民協働推進課

TEL: 022-214-8002 FAX: 022-211-5986

Mail: sim004100@city.sendai.jp

HP: <http://311memorial.org>

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

申込み受付中！

2014年3月29日(土) 14:00～17:30

パートナーシップ NPO・まちづくりに関わる人が

知っておくべき 協働 のこと

協働という言葉がよく使われるようになって15年あまり。奥山恵美子仙台市長の発言の中にもたびたび出てくる「市民協働」という言葉。しかしながら、私たち市民やNPOは「協働」と言われて、どんなものがイメージできるのでしょうか？この協働サロンの、今まで誰も教えてくれなかった「協働」の基本的な考え方を学び、先行事例の紹介を通して「協働」のヒントを得るための場です。

【申込み】TEL 022-212-3010

(仙台市市民活動サポートセンター)

つながる つなげる サポセン

▶ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▶ 相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

▶ 仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

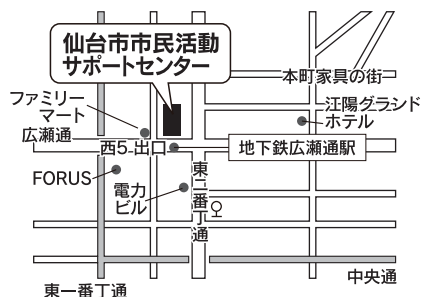
このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日祝：午前10時～午後5時

▶ ご案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

【講師】

(特活) せんだい・みやぎ NPO センター

代表理事 紅邑 晶子さん

浜松市市民協働センター

センター長 長田 治議さん

市民協働による地域防災推進実行委員会

代表 小岩 孝子さん

【会場】 仙台市市民活動サポートセンター
6F セミナーホール

【定員】 50名 参加無料

【対象】 協働を実践しているNPO/ 協働を検討しているNPO/ 協働と言われても何をどうすればよいか分からないNPO等/ まちづくりに関わる諸団体や自治体等

▶ 「ぱれっと」読者アンケート
にご協力をお願いします！

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

サポセンでは、震災後津波被害のあった宮城野区・若林区の災害VCにスタッフを派遣し、運営をお手伝いしました。その後2つの区とのおつきあいが始まり、このたび宮城野区にて、地域住民団体等と協働で宮城野区文化センター主催震災復興交流事業「あなたのオモイそれぞれのカタチ～つたえるつながる～」のプログラムの一部を作り上げることができました(表紙写真)。

発行： 仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日： 2014年3月11日

編集： 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター

編集人： 菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

▽ 開館時間

平日：午前9時～午後10時 / 日祝：午前9時～午後6時

▼ 休館日

毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)

及び、年末年始(12/29～1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]